

足立議員の
質問に答弁

首相菅 推進整備インフラ的に画的計

川辺川ダムは声聞きしっかり対応

自民党の足立敏之参議院議員は8日、参院予算委員会の集中審議で、日本のインフラの整備水準と今後の公共投資の



必要性や、熊本の川辺川ダム、まもなく発災から10年を迎える東日本大震災からの復興状況などについて質問した(写真)。

足立議員は例えば、高速道路1つをとっても、日本の様な対面交通が世界にほとんど存在せず、韓国にも4割存在した対面交通はこの20年間で解消したことや、韓国で日本の2倍以

上、高速道路整備が進んでいる状況を指摘。「日本はこの20年でインフラ投資を半減させたのに対し、韓国は2.7倍に増やしている。この違いがインフラの整備水準の違いにつながった」とことを強調した。

さらに足立議員は、「日本は経済で一流を目指すなら、インフラ整備も先進国並みに引き上げていく必要がある。日本のインフラ整備を今後充実させていくためには、長期計画に基づいて計画的な投資をしっかりと行っていく必要があると考える



が、財源には建設国債を充てることで問題はないと考えるが、菅総理の決意を聞かせてほしい」と迫った。

これに菅義偉首相は「写真(左)、インフラ整備は、地域の生活や経済を支えるために大きな役割を果たしている。引き続き、計画的にインフラ整備、こはしっかりと推進していきたい」と述べ、インフラ整備を計画的に推進する考えを示した。

麻生太郎財務大臣も、韓国とのインフラ水準の開きは「残念ながら事実」と答弁。インフラを「きちんとしておかないと、生産性の向上につながるが」と述べ、その重要性を指摘し、「国土強靱化の中には生産性向上を含めて考えなければいけないことがいっぱいあると私も率直にそう思い、努力して

いる」と語った。足立議員は、菅首相が洪水対策の強化に当たって利水ダムの活用、いわゆる事前放流を提唱していることにも言及。これが全国から称賛されているものの、昨年の氾濫で大きな被害が生じた球磨川には利水ダムがほとんど無いため、「川辺川ダムの建設が不可欠」と強調。今後、地球温暖化により水害が激甚化することを考えれば「川辺川ダムの建設を急ぐべき」と主張し、菅首相の考えを問うた。

菅首相は「近年の水害の激甚化を踏まえれば、災害復旧が完了したとしても、球磨川流域が昨年同様の豪雨に襲われた場合は、再び地域の皆さんにとって経済的に大きな被害が生じる恐れがある」とした上で、川辺川ダムについて「熊本県知事から要望があった。ま

た、地元の方々の声、そこをよく聞いた上で、しっかりと対応したい」と答弁した。

このほかに足立議員は、東日本震災の復興の進捗状況を赤羽一嘉国土交通大臣に質問。赤羽大臣は、6日に三陸沿岸道路、気仙沼湾横断橋の開通で宮城県は全て完了し、ごく一部残っている箇所も今年度中に復旧道路すべてが開通予定であることや、鉄道、港湾の復旧・復興も完了したことを報告。

さらに赤羽大臣は、復興に携わった「地域の守り手として、地元の建設業の業界の皆さんが24時間不眠不休で、本当に命がけて対応して頂いた。そこに地方整備局も身内ではあるが、全国からテックフォース部隊が集結し、まさに命がけの全力で投入した成果だ」と評価した。

菅首相は「近年の水害の激甚化を踏まえれば、災害復旧が完了したとしても、球磨川流域が昨年同様の豪雨に襲われた場合は、再び地域の皆さんにとって経済的に大きな被害が生じる恐れがある」とした上で、川辺川ダムについて「熊本県知事から要望があった。ま